



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	研究室報
Citation	独語独文学科研究年報, 21, 89-91
Issue Date	1995-02
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/25997
Type	other
File Information	21_P89-91.pdf



研 究 室 報

講 義 題 目 (1994 年度)

独 語 学 概 論		植 木 迪 子
独文学史概説		石 原 次 郎
独 語 学	Landeskunde	植 木 迪 子
独 語 学	中高ドイツ語	清 水 誠
独 語 学	標準ドイツ語の成立－社会変化と言語変化－	小 野 光 代
独 語 学	Fachsprache für Juristen, Wirtschaftler und interessierte Germanisten	Franz Schneider
独 文 学	Märchen und Bedeutung (2)	Michael Haas
独 文 学	Schreiben und Textproduktion	Sigrid Holzer
独 文 学	テキスト読解の基礎	石 原 次 郎
独 文 学	K. I. ガイガーと18世紀末ドイツ	村 田 竜 道
独 文 学	ツェラーンとリルケ	相 原 勝
独 語 学 演 習	独語学の基本	植 木 迪 子
独 語 学 演 習	Einführung in die Kognitive Linguistik	植 木 迪 子
独 語 学 演 習	西ゲルマン語演習	清 水 誠
独 語 学 演 習	オランダ語学 (1)	清 水 誠
独 語 学 演 習	Linguistik und Terminologie	Franz Schneider
独 文 学 演 習	19世紀半ばのグラビア雑誌	高 橋 吉 文
独 文 学 演 習	文学に向き合う読者	石 原 次 郎
独 文 学 演 習	Lesen und Sprechen	Franz Schneider

研 究 室 行 事 記 録

◎1994年2月22日に北海道大学文学部301号室において1993年度卒業論文・修士論文発表会が開かれた。

◎1994年には、文学部で下記の研究会がもたれた。

- ・7月19日 塩谷幸子「Die Exklamativsätze und ihre Position im Satzmodus – system」
林 馨 子「Subjektkontrolle und Objektkontrolle」

〈留学関係〉

◎1994年8月に荻原達夫氏がミュンヘン大学から留学を終え帰国した。

◎1994年8月に田野中純子氏がミュンヘン大学へ留学のため出発した。

◎1994年9月に田中 慎氏がパッサウ大学から留学を終え帰国した。

◎1994年9月に臼渕幸子氏がパッサウ大学から留学を終え帰国した。

◎1994年9月に中柁勝美氏がハンブルク大学から留学を終え帰国した。

◎1994年9月に清水 誠氏がオランダ・フローニンゲン大学から留学を終え帰国した。

☆1994年5月7日に年報の総会が行われ、会長選出、幹事選出、入会報告等が行われた。

1993年度論文題目

卒業論文

漆 山 和 仁：ナチス宣伝省による文学の操作と大衆

——『ホルスト・ヴェッセルの歌』の盛衰——

瀬 戸 美奈子：カフカのユーモア —人物の身振りと物語に登場する奇異な存在—

田 中 智 美：Michael Ende：“Der Rattenfänger – Ein Hamelner Totentanz”

新 田 雄 子：アーダルベルト・シュティフター『水晶』研究

湯 浅 英 俊：Ein kurzweilig lesen von Dil Ulenspiegel 民衆本成立についての考察

横 井 彰 子：カフカ『変身』論

吉 田 理 恵：ハインリヒ・ベル『アダムよ、おまえはどこにいた』

—— 戦争の中の人間達 ——

修士論文

林 馨 子：ドイツ語及びオランダ語における動詞繰り上げについて

北海道大学ドイツ語学・文学研究会会則

1. 本会は北海道大学ドイツ語学・文学研究会と称する。
2. 本会はドイツ語学・文学の発展に寄与することを目的とする。
3. 本会は上の目的達成のため下記の事業を行なう。
 - 1) 機関紙「独語独文学科研究年報」を毎年1回発行する。
 - 2) 合評会、研究会、講演会等を随時行なう。
4. 本会員は北海道大学文学部独語・独文学研究室の教官・院生（学生も含む）ならびにその趣旨に賛同するものによって構成される。

本会員は上の活動の遂行のため所定の会費を支払う。

本会は1名の会長と若干名の幹事をおく。幹事は会計および編集委員を兼任する。

本会の会計年度は毎年4月1日に始まり3月31日をもって終わる。

本会の事務所は北海道大学文学部独語独文学研究室におく。

本会に賛助会員をおく。

会 員 名 簿

※青 柳 謙 二	石 川 克 知	石 橋 道 大	石 原 次 郎
伊 藤 祐紀子	岩 井 洋	岩 田 聡	◎植 木 迪 子
臼 渕 幸 子	梅 津 真	江 口 豊	岡 田 麻 子
○小 川 了	荻 原 達 夫	小 澤 幸 夫	加 藤 寛 蔵
川 島 淳 夫	川 東 雅 樹	岸 川 良 蔵	佐 藤 修 子
佐 藤 俊 一	○塩 谷 幸 子	※塩 谷 饒	清 水 誠
神 久 聡	鈴 木 将 史	瀬 川 修 二	高 橋 修
高 橋 吉 文	田 中 慎	田 中 剛	○田野中 純 子
対 馬 晃	寺 田 龍 男	中 川 勝 昭	中 祢 勝 美
名 執 基 樹	西 川 智 之	林 馨 子	藤 本 純 子
前 原 真 吾	三 浦 國 泰	最 上 英 明	森 田 一 平
山 田 恵 子	山 田 善 久		

◎は会長

○は幹事

※は賛助会員

独語独文学科研究年報 第21号

1995年2月発行

発 行 者 北海道大学ドイツ語学・文学研究会
 編集委員 小 川 了 塩 谷 幸 子
 田野中 純 子
 連 絡 先 北海道大学文学部独語独文学研究室内
 060 札幌市北区北10条西7丁目
 印 刷 所 北 大 印 刷
